

審 議 結 果

次の審議会を下記のとおり開催した。

- | | |
|----------|--|
| 1. 会 議 名 | 第1回 益田市立学校整備計画審議会 |
| 2. 開催日時 | 平成30年8月16日(木) 16:00~18:00 |
| 3. 開催場所 | 益田市役所 本館3F 第1会議室 |
| 4. 出席者 | 柳井秀雄、武内 白、大畑伸幸、山本裕士、田原啓文、藤江 誠
*委員は別紙名簿のとおり
*欠席 大庭匡史委員・吉岡正弘委員 |

5. 議 題 別紙次第のとおり

6. 審議経過

開会 *司会 山本教育総務課長

①審議会について

- ・山本教育総務課長
- ・審議会規則について説明

②教育長あいさつ

- ・柳井教育長
- ・すでにご承知のとおり本市においても少子高齢化の影響で小中学校の小規模化が進んでおります。第二次ベビーブームの影響などで昭和59年度に8,240人いた児童生徒は、約35年が経過した今年度においては半数以下の3,630人にまで減少しています。本市においては、少子化という状況にあってもより良い教育環境を提供していくため、これまで平成10年度、平成20年度に学校再編に関する計画を策定し、地域の方々のご理解をいただきながら、学校再編に取り組んでまいりました。しかしながら、小中学校の適正規模・適正配置は、広大な面積を有する本市にあって、なかなか思うように進んでいないのが現状です。このような状況の中、義務教育本来の目的を達成し、将来にわたり益田市に学ぶ小中学生の良好な教育環境を維持していくことができるよう、本日ここに益田市立学校整備計画審議会を招集させていただき、ご参加いただいた委員の皆様方で第1回目の審議会を開催する運びとなりました。今後は、皆様方のご意見をもとに様々な観点から調査研究等を行いながら、学校再編に関する基本指針の策定、さらには実施計画の策定を進めてまいりたいと考えております。学校再編計画の検討は、様々な要素が絡む非常に困難な課題です。学校は、子どもたちの教育はもちろん、地域コミュニティの核としての役割、災害時の避難所として役割など、時代が変わる中で、様々な役割が期待されてきているところです。そのあたりを踏まえつつも、教育委員会としては、学校の使命は、児童生徒の教育が第一であり、学校教育の目的や目標をより良く実現するために学校の再編計画は作られるべきものと考えております。委員の皆様におかれましては、それぞれの立場で、様々な観点・視点から忌憚のないご意見を交わす中で、答申をまとめ上げていただきたいと考えております。本再編計画が、子供たちにとって、そして益田市にとって素晴らしい計画となることと、皆様方のご活躍・ご健勝を祈念し挨拶とさせていただきます。よろ

しくお願いいたします。

③委員委嘱・紹介

・山本教育総務課長

・委員委嘱、事務局紹介、委員自己紹介

④日程等説明

・田原推進室長

・審議会の目的・スケジュール（案）について説明【資料1-1、1-2】

・山本教育総務課長

・平成30年度が基本指針の作成、31年度が実施計画の作成ということになります。ただいまの説明についてご質問はございませんか。

・一同

・なし

7. 協議

・山本教育総務課長

・議題に入ります前に、本審議会について11名中9名出席で過半数の出席ですので規則により本審議会は成立します。まずは「(1)会長・副会長の互選及び諮問について」です。はじめに、会長・副会長の互選でございますが、規則第5条第1項に「審議会に会長及び副会長1人置く」としております。また、同条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選とする」としております。いかがいたしましょうか。

・委員

・事務局のほうで案がありましたらお願いします。

・山本教育総務課長

・それでは、事務局案を発表させていただいてよろしいか。

・一同

・よろしい。

・田原推進室長

・それでは事務局案を申し上げます。会長は島根大学教育学部教授である作野広和委員を推薦します。また副会長には、吉田小学校校長の領家芳明委員を推薦いたします。以上です。

・山本教育総務課長

・ただいま事務局より会長・副会長お二人を推薦させていただきましたが、いかがでしょうか。ご賛同いただければ拍手をお願いいたします。

・一同

・拍手（事務局案で決定）

・山本教育総務課長

・ありがとうございます。それでは、益田市立学校整備計画審議会の会長に作野広和委員、副会長に吉田小学校の領家芳明委員を決定いたしました。協議に入ります。作野会長どうぞよろしく申し上げます。

・作野会長

・自分自身、過疎地域の研究を行っており、こちらのほうに20年間関わっている。再編については、津和野町、吉賀町の再編に関わっていた。ここ数年は高校の魅力化事業に関わっており、矢上高校、飯南高校、鳥取県立日野高校の魅力化に関わっている。「再編ありきで行うのなら」と委員さんの自己紹介でもあったが、自分も同意見で再編のための再編をするのでなく、益田市の学校教育をどう変えていくかを協議いただく場であると考えている。

(会長挨拶)

・柳井教育長

○諮問書提出（別紙）

・武内教育部長

○諮問書読み上げ

※教育長退席

*議長 作野広和会長

・田原推進室長

・議題(2)これまでの再編計画と小中学校の状況説明【資料2-1、2-2】

・会長

・審議会のスケジュールについてはご了解いただいているが、諮問理由、再編計

画・状況説明について質問をいただきたい。その上で適正規模・適正配置についてご意見をいただきたい。

- ・ 委員
- ・ 田原推進室長
 - ・ 表の出典元はどうなっているのか。
 - ・ 平成30年までのデータは、毎年5月1日の時点で調査を行っておりそれを元にしていて。35年、40年のデータについて、小学校の35年、中学校の35、40年は現在生まれている子どもの数を拾い上げている。40年の小学生については人口推計で用いられているコーホート推計法を用いて、各地区の母親世代と出生率を掛け合わせる方法で推計している。
- ・ 大畑推進監
- ・ 委員
 - ・ Iターン、Uターンを加味せずに行っている。
 - ・ クラス数は小中ともに特別支援学級があるが、この表のクラス数はそれを入れていないような気がするがいかがか。
- ・ 田原推進室長
- ・ 委員
 - ・ この表の学級数は特別支援学級を外し、通常学級のみ計上している。
 - ・ つまり、児童生徒数はすべてをあげているが学級数は特別支援学級をないものとして考えて学級当たりの人数を算出していると理解してよろしいか。
- ・ 田原推進室長
- ・ 会長
 - ・ その通り。
 - ・ 今後、出典や論拠をきちんと明示しておかないと、書類だけ出回るとき誤解を生じる可能性がある。適正規模と言うかどうか別にして、適正規模を考えるうえで出された学級数、児童生徒数であるにご認識願いたい。事務局の説明で、複式学級の解消とあった。複式学級は解消すべきものと益田市は考えているのか。複式学級こそ大事なものと私は考えるがいかがか。
- ・ 田原推進室長
 - ・ 益田市が考えているのが、どの子ども同じ形で教育を受けて欲しいというのが大前提にある。その中で、複式学級というのは学年をまたいだ指導であり、子どもや教員にとってイレギュラーな指導になるのでまずはどの子どもにも同じような教育をとるという観点から解消していきたいと考える。
- ・ 大畑推進監
- ・ 会長
 - ・ 平成10年度の案で、そのような考えを出している。
 - ・ イレギュラーというが、どのような根拠から出したのか。教員としてはいろいろあるが、学校教育のあるべき姿として、益田市はなぜイレギュラーと考えるのか。
- ・ 大畑推進監
 - ・ 平成10年当時は、複式解消が大きな柱となっていた。20年以後は出ていないので、複式学級の解消というのは過去出されたものである。
- ・ 会長
 - ・ それでは、「(3) 益田市における適正規模・適正配置について」を説明していただいて、その後全委員に意見を言ってもらって、一巡したあとフリーに意見や質問をお願いしたい。先ほどの説明が長いように感じた。読めばわかるものは省き、大事なことを重点的に説明いただきたい。
- ・ 田原推進室長
 - ・ 議題(3) 益田市における適正規模・適正配置について【資料3-1、3-1-2、3-2】について説明
益田市は「地域自治組織」を立ち上げることを進めているが、その考えかたと小規模校を核とした地域コミュニティの考え方は共通する部分があると考えている。小規模校のメリットを生かしつつディメリットの解消・緩和につながる

のであれば、施策として進めている「地域自治組織」を生かした形で小規模校との関わりが学校、地域の活性化につながるのではないかと考えている。これまでの学校再編は学校という機能だけに焦点を当てた考え方で、その問題解決を図るために行ってきた。この度、新しく学校再編にかかる計画を作成するにあたり、学校単体のみという考え方でなく、市に施策として取り組んでいる「地域自治組織」を中心とした考え方と連動させていければと考えている。地域とともにある学校という考えを強く意識した考え方でいければと思っている。あくまでも、学校教育の基本は児童生徒の能力を伸ばしていくことであり、社会的自立を促す場所である。義務教育から旅立つまでの資質を身に付けていく場として、地域にも多少の協力をいただきながら、この計画を作成していきたい。

- ・ 大畑推進監
 - ・ なぜ複式解消かと言いますと、集団的な活動するとこと、特に小学校においては、例えば多様な意見を交換すること、集団的な体育の授業を行うことができないことであり、職員については、人数が増えれば多様な課題を持つ子どもへの対応がチームで行えることの2点があげられており教育内容については触れられていない。
- ・ 会長
 - ・ これは複式の問題でなく、小規模校の問題である。複式をやり玉に挙げるのはいかななものか。
- ・ 大畑推進監
 - ・ 豊川小学校は「地域自治組織」の中に、子どもたちを核にしなが人が繋がって学ぶ人づくり部会があり、そのシステムを学校を中心に行うことで、持続可能な人づくりの視点をもってやっている。益田市が目指している「地域自治組織」、地域でしっかり地域を盛り上げていこう、持続可能な人づくりを行っていこうとすることと、学校での活動がマッチした取組であるということで事例紹介をした。
- ・ 会長
 - ・ 最後のほうで、大事なことをおっしゃったが、それについては資料がない。今日のところで客観的な説明をされたので、言いっぱなしになるかもしれないが皆さんからご意見をいただきたい。
- ・ 委員
 - ・ 教員になって30数年になる。昭和58年に最初の赴任したのは吉田小学校で当時1,500人の児童がおり、吉田南小学校と分離するまで勤務していた。そのころは1学級の人数が45人で自分のクラスもそうであった。転入生が来て46人になったこともあった。その後、匹見町の澄川小へ赴任したが、複式のある学校で児童数が16名で約100分の1になった。大規模校には大規模校のよさがあり、小規模校、複式のある学校にもそれがある。小さな小学校では小さな小学校でしか学べないものがあるように思う。自分は小学校に勤務してきたが、義務教育の9年間の中で子どもたちが成長していくうえで、そのまま成長していくことはどうかという思いがある。今日は、中学校、高等学校の先生がいらっしやらないので見解を待ちたいと思う。一つ心に残っているのは、上の娘が高校を卒業するときクラスでスピーチがあったが、「私はこのクラスに入ってびっくりしました。このクラスには人が多すぎて皆が怖く感じました。しかし、このクラスで3年間学ぶ中で、皆がとてもよい人だと感じて今はこの

クラスが大好きです」と話したのがすごく印象に残っている。高校に入ったとき怖いと思ったみたいだが、子どもにはそれぞれ成長する中で、それぞれの発達段階に応じた必要な経験があるのかと考えたとき、益田市は小学校と中学校がほとんどイコールの規模になっている。そこはどうかということはこの会で議論していきたい。

・委員

・資料を読ませていただいたが、あちらを立てればこちらが立たないような難しい課題だと思う。私は東陽中のPTAで、昨年までは各学年2クラスの6学級の学校であったが、今年から3年と1年が1学級になった。部活動はあるが、1年生は自分の入りたい部活動、強い部活動、多い人数で行っている学校に変わった生徒がいたと子どもから聞いた。先日、鎌手に仕事で行って地域の人からも話を聞いた。学校がなくなるのは困ると話されていた。子どもが減っていく中で、親としては小規模校で学習することは小学校ではみな平等、同じような感じでやっているが、中学校では大きい人数でするのがいいかなと感じる。資料を見たら、どことどこが統合になってくるが地域性的問題もあり難しい。

・委員

・私は1,500人の児童で、水害の時5年か4年であった。自分は大規模校で育ってきたが、豊川地区に嫁いで、子どもは小規模校で育っている。どちらにもいいところ、悪いところが有ると身をもって感じているが、子どもが小学校を卒業した。小さい学校だと絶対にいろいろな役目が回ってきて逃げも隠れもできない。保護者の役員もそうである。現在、益田東中の役員をしているが、そこでは、益田小の事情を聞くことがあるが、子どもは人数が増えて楽しいこともあるようで増えたことに関して怖いということもない。人が多くて楽しい、友達がたくさんできたと話している。PTA役員はたくさん会員数があるのでしてくれる人もたくさんいるのかなと思っていたら、一人の人、決まった方が6年間、9年間やっていることがある。豊川小なら順番なので、だれもがやるという雰囲気だが、多いといいじゃないとか一概に言えない。小さい学校にもよさはたくさんある。豊川はコミュニティスクールを行っているが、自分の子どもが出た後から始まった。以前から地域の大人の方との関りがあって、地域の連合運動会では、それぞれの地区が一体になってその地区の子どもを応援するなどあってつながりは以前からあった地域である。皆さん運動会や鼓笛を楽しみにしておられて、鼓笛を縮小したいと意見が出たとき、当時の校長先生が地域の方が楽しみにしていられるからと維持された。小学校があることは地域のお年寄りの元気の源と感ずることがある。実際、豊川が窮屈だと出ていかれた方もいるが、そのような意見を聞くとどっちがいいか悪いか言えないが、小規模校で育った子はいろいろなことができるようになるし、大規模校ではそのような経験ができないこともある。そのことを今になって感じている。吉田小ではスキー体験教室もないなど、自分の子どもはいろいろな経験ができて幸せだと思う。大規模がいいとは言いきれないが、今の人との関係を大切にしていけることができると感じている。

・委員

・審議会に初めて出させていただいて、自分の心構えとして、難しい議論だが、

皆さんの個別な意見を出しながら現場のこと想像しながらやっていかなければいけない。人は経験値以上のことは想像できない。全体的な議論を聞いて印象的だったことは、学校現場のことだけで考えるのは限界があるということで、社会教育との連携を考えていかなければいけないことである。これまでの計画の中では、益田市の義務教育をどう考えるかとか、地域コミュニティとの連携をどうとっていくかを考えていくかがこれまでなかったと思う。今後、それに踏み込んでいけると、全国でもおもしろい益田市独自の教育が予想される。学校規模の推計資料を見て感じたが、適正規模と言われる学校が3/12ということだが、その3/12の学校ももしかしたら10年後、20年後に小規模な学校になることも考えられる中で、数だけを論点にしてこのようなことを考えるのはそろそろ限界かなと感じる。そうすると、益田市全体が小規模だから学校をやめてしまえになる。小さい学校ばかりになった時の益田市の考え方をこのタイミングで盛り込んでいけるといい計画になると思う。

・委員

・種小が統合した2年前にPTA会長であった。また、自分が中学2年の時、東陽中に種中が統合した。統合時の大変さを体験したが、高校も学園高校に入学し途中から益田東高校になった。統合する学校の大変さを見てきたこともあった。種小が統合する2年前のPTA会長として議論してくださいといわれ、会員を集め、統合ありき、統合なしの両方の観点からメリット、デメリットの話し合いを3時間行いまとめて保護者の考えを公民館に提出した。その時、統合したくないという地域住民の会合にも参加し、「保護者の意見を取りまとめた。見てください」と提案した。統合を絶対したくないとずいぶん言われたが、「あなた方のお孫さんがここにいてくれたなら統合という問題はなかったかもしれない。保護者として、自分の子どもがいる中で将来を考えどうしたいか言ってくれ」と話し、最終的には保護者の意見を真剣に考えてくれる会になった。この会が再編ありきの会でなければいいし、小規模なら小規模で、例えば真砂中が不登校の受け皿としていろいろ活動をされていたが、そのように学校の特色を出しながら、市にとって大事な学校であると示せるような学校であって欲しい。何もしないで「残してほしい」ではいけないと思う。地域で一生懸命努力するんだと言って欲しいし、言ってもらわないと行き着くことはない。市の財政事情も加味しなければいけないこともあり、この会で厳しい決断をすることも出てくると思うが、できるだけ経験値を生かしながら話ができたらなと思う。

・会長

・益田市教育委員会としては、財政事情のことについて全く触れられていない。益田市は財政のために再編することは全く念頭にないと思う。全国的にも学校が交付税の上からも学校があったほうが有利である。

・委員

・西益田の人口は4,000人余りである。地区内には、小学校1校、中学校1校、保育園が4園ある。それぞれが西益田小に来るが、最初は戸惑うかもしれないが小学校からみな同じ中学校に上がるので顔なじみである。それはそれでいいが、多少転入があったりしたほうがいいと思う。西益田は地域自治組織に

ついて準備段階であるが、いろいろな催しものをするにしても、保・小・中、県立養護学校も一緒に取り組んでいる。また、高津川を利用した鮎つかみでは、小学生が保育園児の面倒を見たり、中学生が小学生が見守ったりしている。それで、保育園から中学校、養護学校まで一緒になって地域を盛り上げていくことは大事だと思う。西益田は田舎なので繋がりが多少残っているし人口拡大課のアドバイスを得ながら、子どもたちが将来どうなるか考えたい。高齢者が増えて子どもが少なくなるのはどこも同じである。大きな数の自治会は危機感がないと思うが、西益田地区にも危ない地区はある。そのような地区にどのように手を差し伸べていくか、小学校や中学校だけでなく、地域に抱えている課題はある。高校を卒業したら地域に帰ってくることも少ない。地域に残れば子守を親にしてもらえしこれ以上いいことはない。来年の春には地域自治組織を立ち上げたい。

・ 委 員

・ 益田市が進めている公民館を核にして地域コミュニティを作る活動を行っているが、その中にどうしても小学校が関わってくることは一つのポイントになる。今から40年前に東仙道中学校が美都中学校に統合するとき村を挙げて賛成派と反対派に分かれて対立したのを覚えている。今はそのようなことはないが、自治会で集まったりして、子供の数が減ったから、これから先は保護者の考え聞き、統合したいなら協力しなければいけないし、そうでなかつとしてもそれに対し協力しなければいけない。10年前は答申について協議し、学校を残そうということになり、現状のままでやっといこうと頑張ったので今の状況がある。今回も答申が出されれば、それに対し協議しなければいけない。中学校については、部活が限られてくるので、東仙道から美都中へ行ってもブラスバンドや野球部がなく限られている。よって、美都中に集まることが難しくなっている。昨日、盆踊り大会があつて皆さんの意見も聞いたが、部活動がないので全体で考えていかないといけない。子どもたちはいろいろなスポーツができる条件、それに伴う指導者がいるということでないといけない。

・ 委 員

・ 自分も美都在住だが、自分の孫が小学校に上がるにあたって、吉田小校区から自分の家の近所に家を建てて都茂小の2年になった。全校で五百数十人から1学年7人となり、息子が自分で判断してそうした。経験的には吉田小は人数が多いし何でもできると思っているが親の判断なので言えない。地域の方が考える学校と保護者が考える学校、これから子どもが入る保護者、教師が考える学校は違うと思う。その中で学校をどうしていくかは難しいと思う。地域自治組織についてあつたが、地域のことは地域でやろうという機運をどこまで持てるかがポイントである。そのために引っ張って行く人がいないとできない。人づくりは何年もかかるし、学校再編をどう考えるかは、市として本来は一人一人の市民をどう大切に育てていくかである。

・ 会 長

・ 委員の皆さんの意見をまとめるのではなく今日の審議を整理する。これは、皆さんの意見の整理であつて審議会の方向性を示すのものでない。会長として4点にまとめたい。①地域全体の人口が減少する中で、地域としてそれを前提に検

討していかなければいけない。②学校の役割は学校教育の範疇だけでなく、地域コミュニティの核など学校が多様な役割を持たざるを得ない。③一方で、現在の児童生徒数や学校教育の在り方を考えると、皆さんの意見にあったように一定の学校再編はあるのかなと実感する。とりわけ、中学校が小規模すぎるのは難しい。小学校は、大規模、小規模のそれぞれのメリットがあると思う。④子供の将来や地域の将来のあるべき姿を提示して、それに、学校のあるべき姿を検討するという意見だったと思う。会長としての発言だが、文部科学省は全国一律に一定の基準、考え方、用語を使っている。益田市としては益田市のスタイルを構築していく。その一つの例が豊川小学校の場合のような例が考えられる。いずれにしても、益田市スタイルをこの場で話し合っていくことが必要である。これは、会長の議事整理として議事録にとどめていただくが、次回はそれらを元にスタートしていくことでよろしいか。今の議事の範疇で見解があればお答えいただきたい。

- ・ 大畑推進監
 - ・ 地域自治組織のような地域コミュニティの単位はすべての公民館にあり、今後、公民館を残すことを政策決定している。コミュニティの単位は豊川のような耐震化されている小学校が核になると考える。今後、他地区もこのような方向性になると思う。もう一つは、子どもたちが小学校、中学校、高校と発達段階に応じて、子どもたちの社会の広がり保証することが必要であろうという今までの委員さんのご意見も考え、前回、計画見直しの際に中学校を速やかに再編するという視点があったのはその点からと理解している。
- ・ 会長
 - ・ まとめを繰り返さないがよろしいか。審議会が8月、9月、10月の三回しかない。その中で結論を得るということは、なかなか困難なことである。だが、国の審議会なども3回程度であるので、この会もどこかで判断しなければいけない。3回の審議会で、イメージとしては平成20年の方針のようなものを今年度策定し、実施計画については来年度細かく決めていく。よって、この三回が基本と考えていただきたい。加えて、三回では足りないので市民の皆さんへの啓発的な動き、情報提供を11月以降頑張ってもらおうということで委員の皆さんにご理解いただきたい。

8. その他

- ・ 山本教育総務課長
 - ・ いろいろご意見をいただきましたがこれらを反映していきたいと思う。次回以降の開催日等について担当者よりお知らせする。
- ・ 田原推進室長
 - ・ 2点お願いしたい。開催日は勝手ながらこちらで決めさせていただいている。2回目は9月7日金曜日、3回目が10月10日水曜日を予定している。時間はいずれも同じ時間を考えているが9月7日は議会の一般質問があることから16:30開会の可能性がある。開催時間についてはまたお知らせしたい。本日欠席の方にもそのようにお伝えしたい。もう一点、書類のご記入をお願いしているので、記入されたら提出願いたい。
- ・ 山本教育総務課長
 - ・ 最後にご意見がないようでしたら閉会にしたい。

以上